

ISO 幹事国活動**1. 国際規格発行に関する進捗状況**

ISO 規格が発行されたもの：3 件

ISO 4995 (SC 12)：構造用熱延鋼板

ISO 4996 (SC 12)：構造用高 Y_p 熱延鋼板

ISO 4997 (SC 12)：構造用冷延鋼板

2. ISO 中央事務局関係

欧州規格と ISO 規格の関連について：欧州規格の作成過程に ISO の関係 TC/SC が出席してオブザーバーとして意見を述べるができる方向で制度改正が検討されている（執行委員会情報）。従来は両中央事務局を通しての Document 交換が正式なものであったので実現すれば大きな前進である。

3. TC 17 (鉄鋼) 関係

(1) ISO 規格と対応国家規格との比較

第 7 回 TC 17/EC 会議（1990 年 6 月開催）の結論に従い、上記の比較を試験的に実施した。TC 17 Secretariat からの質問書に対し、下記の P メンバーより回答があった。

オーストラリア、チェコ、フランス、日本、オランダ、ノルウェー、ポーランド、南ア、スウェーデン、米国

規格体系の違い、質問事項に対する理解度等から、回答状況は必ずしも期待どおりとは言えなかった。特に、欧州諸国は欧州規格の作業の進行とも関係あり、十分な回答が得られなかった。早急にデータを取りまとめると共に、今後の進め方につき結論を出すことにしている。

(2) スイスより TC 17/SC 11 のメンバーシップにつき O メンバーから non-メンバーに変更するとの連絡があった。

(3) 昨年導入した IBM パソコンを利用して、当事務局としての作業項目の進捗管理をパソコンで行う方法を検討してきたが、このたび完了した。今後管理資料として活用する予定である。

(4) WG 20—OT 線—

CD 8458-3（ばね用オイルテンパー線）について、DIS 化の賛否を問うために TC 17 P メンバーに回付していたが、次のとおりの回答状況で賛成多数であった。従って早急に中央事務局の DIS 登録を申請する予定である。

-DIS 化に賛成：オーストラリア、オーストリア、チェコ、フィンランド、フランス、ドイツ、イラン、日本、スウェーデン、タンザニア、トルコ、イギリス

-DIS 化に反対：中国、南ア

(5) SC 19—鋼管—

DIS 10124：「継目無及び ERW 鋼管：ラミナー検出のための UST」の承認に関する投票が 1991 年 4 月

4 日締切りで実施されたが、オーストリア、フランス、ドイツ、日本、スウェーデン、米国の 6 か国（すべて P メンバー）の反対で否決された。

この DIS は 1990 年 3 月の SC 19/WG 1 の会議では UK、フランスの各エキスパートが賛成、ドイツのエキスパートは反対、棄権が 2 名であり、また 1990 年 5 月の SC 19 会議ではフランス、日本、イタリア、UK、チェコが賛成、USA、オーストリア、ドイツ反対という状況で、多数決ではあるが反対の多いものであった。6 月のミラノ会議で今後の処置が検討される予定であるが、DIS 登録の過程でのコンセンサスの重要性が再認識された。

(6) SC 20—出荷条件—

次回会議が、ISO/TC 17 総会の前週の 11 月 15 日（金）、16 日（土）の 2 日間、京都で開催されることが決定された。SC 12 の会議が同じく 12 日（火）～15 日（金）に開催されるが、これと実質オーバーラップしないようにという SC 20 の強い要望があり、上記の日程となった。主な議題は ISO 377-1、377-2 の改訂作業である。

4. TC 17/SC 1 (化学成分分析) 関係

規格改訂

ISO 377-2：鋼材の試料及び試験片の採取と調製（第 2 部 化学成分定量用試料）

当規格は TC 17/SC 20 のもとで改訂が計画されている。当規格の性質上① SC 1 も参画すべきこと、② SC 1 が扱っている鉄（Iron）も含むべきことを SC 20 に伝えたと、SC 1 に対し次のような回答があった（5 月 16 日）。

(1) SC 20 のもとに WG 1 を設立する。

(2) コンビナーは SC 1 が担当する。

(3) エキスパートは 7 月 31 日までに募る。

これに対し、SC 1 としては基本的に同意するとして、SC 1 各メンバーに対し WG 1 への参画を呼びかけた（5 月 31 日）。(TC 17/SC 20 の項参照)

5. TC 67/SC 5 (油井管) 関係

第 4 回 TC 67/SC 5 諮問部会（5 月 22 日開催、奈良部会長以下 10 名）

国際会議への具体的な対応策を検討し、下記の線を決めた。

(1) Soft conversion の必要性は API standard 5B の DIS 化と関連を持つ必要があることを強調する。

(2) Steel grade は API designation が無理な場合は、Letter のみまたは SI unit の YP 値で示す。

(3) 伸び計算式は API 5 L の Metric formula による。

(4) 引用規格にて対応 ISO 規格がない場合は、API に採用されたものをそのまま使用する。

6. 国際会議 (向こう 3 か月間の予定)

SC 11 国際会議

1991 年 9 月 30 日～10 月 3 日、ブルノ（チェコ）